

公民科（公共）学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）
埼玉県立和光国際高等学校
教諭 小池 哲志

- 1 単元名：自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち
「財政及び租税の役割、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化」

2 単元について

（１）教材観（学習単元の概要）

今日、現実の様々な社会的事象は、あらゆる価値が複雑に絡み合って我々の前に立ち現われてくることが多い。ある立場にとってのメリットが、一方で別の立場のデメリットとなり、政策決定や社会的合意形成を困難にしている。

社会保障制度についても同様の事がいえる。特に近年は、高齢化による社会保障給付費の増加と少子化による現役世代の減少が避けられない中で、制度の持続可能性の確保が課題となっている。そこで本単元では、「A 公共の扉（１）（２）（３）」で学習した、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念・理論などや、公共空間における基本原理を活用し、「将来の望ましい社会保障」を他者と協議して追究したり解決したりする学習を通して、人間についての在り方生き方についての理解を深めつつ、法、政治及び経済などに関わるシステム下で活用するために必要な「知識及び技能」や、「思考力・判断力・表現力等」を身につけさせたい。

（２）生徒観（学習状況の実態）

本校の生徒は大学進学希望が多く、学習意欲も高く何事にも一生懸命に取り組む生徒が多い。日頃から対話的な学びの場面を各教科・科目で設定し取り組ませているので、授業時の話し合い活動も、積極的に取り組む生徒が多い。しかしながら、発言される意見の中には、客観性に欠ける意見や、思い込みの強い意見も少なからず見受けられる。本単元では、様々な視点（先哲の考え方等）で物事を考える学習や、グループ学習活動を通して、物事を多面的・多角的に考え、自分の考え方（価値感）を表明することができる力を養いたい。

（３）指導観（学習の手立て）

本単元では「少子高齢化社会においてどのような社会保障の在り方が望ましいか」をテーマとし、様々な視点で（「行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方」、「行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方」等）考えさせる学習活動（個人活動・グループワーク）を行う。また学習活動を可視化することで、より深まるように工夫する。具体的には個人の活動をワークシートに記し、それをグループ学習で活用できるようにしたり、各グループによる話し合いの結果をホワイトボードに記し、それを一覧にして黒板に掲示したりする。

（４）道徳教育・道徳科との関連

①C－１２ 社会参画・公共の精神

社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神を持ってより良い社会の実現に努めること。

②C－１３ 公正・公平・社会正義

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

③B－９ 相互理解・寛容

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなも

の見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に学び、自らを高めていくこと。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

「少子高齢化においてどのような社会保障の在り方が望ましいか」という単元を貫くテーマを設定し、テーマの解答を作成するにあたって必要な知識及び技能の習得を目指す。また「A 公共の扉」で獲得した概念や理論を活用し、そのテーマの解決に向けて、事実を基に協働して考察したり構想したりすることを、論拠をもって表現する力を養う。

(2) 単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
我が国における社会保障の現状や課題を、医療、介護、年金などの保険制度に見られる諸課題を通して理解している。	A 公共の扉で学習した概念や理論（公正）、他者の意見を踏まえて、自分の意見を表現している。	社会保障制度について、さらにテーマを深め、自ら進んで探究しようとしている。

4 指導計画

時	指 導 内 容 等
1	社会保障制度の基本的な知識理解（社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生など）
2	社会保障制度の基本的な知識理解2（少子高齢化、諸問題について）
本時	中学校までの社会科や A 公共の扉で学んだ理論、概念を活用し、社会保障の諸問題について多面的・多角的に考察させる。
4	課題に対する答えをグループで調べて表現する
5	各グループで発表
6	課題を再度個人で答える

5 本時の学習

(1) ねらい

中学校までの社会科や A 公共の扉で学んだ理論、概念を活用し、社会保障の諸問題について多面的・多角的に考察させる。

(2) 展開

時間	生徒の活動	教師の指導・支援等	資料等
導入5分	○本時の説明 ○課題について補足説明を聞く。	意欲的に参加できるように、活動の趣旨やねらいを強調する。	
展開 40分	○行為の結果(「帰結主義」)で考えると具体的にどのような社会保障が望ましくなるか。またその際、どのような問題が生じるか。(個人ワーク) ○行為の動機となる公正(不平等などを是正する)さを重視すると具体的にどのような社会保障が望ましくなるか。またその際、どのような問題が生じるか (個人ワーク) ○効率(市場原理と個人の自由等)を重視すると具体的にどのような社会保障が望ましくなるか。またその際、どのような問題が生じるか。 (個人ワーク) ○各グループに分かれて意見を共有しあう。 ○日本型、北欧型、アメリカ型の社会保障を紹介し、「少子高齢化社会においてどのような社会保障の在り方が望ましいか」を考えさせる。 (個人ワーク→グループワーク)	★生徒の意見が積極的に表明されるように、適宜机間巡視を行う。 ○「日本の人口バランスはどうなっているのか」、「それを踏まえ帰結主義ではどのような考え方になるか」等のアドバイスをを行う。 ○すべての人に機会が等しく与えられる視点(ロールズ)の指摘を行う。 ○個々の事情を考慮して与えられる視点(セン)の指摘を行う。 ○「保障されない人たちに対しては具体的にどのように対応したら良いか」等の発問をすることによって、思索が深まるようにアドバイスをを行う。 ○抽象的な表現に留まらないように、ポイントを絞らせ、例えば「年金、医療の財源をどうするか」「財源が足りない場合には国民にはどのような姿勢が求められるか」などの発問を行う。 ○「高福祉ー高負担か低福祉ー低負担」の二項対立にならないようにアドバイスをを行う。	
まとめ 5分	○次回は課題について調べる 発表すること理解する		

社会保障 第3回目 授業プリント

() 組 () 番 氏名

Q1 行為の結果(「帰結主義」)で考えると具体的にどのような社会保障が望ましくなるか。またその際、どのような問題が生じるか。

Q2 行為の動機となる公正(不平等等を是正する)さを重視すると具体的にどのような社会保障が望ましくなるか。またその際、どのような問題が生じるか

Q3 効率(市場原理と個人の自由等)を重視すると具体的にどのような社会保障が望ましくなるか。またその際、どのような問題が生じるか。

■ グループワークを通して

■「少子高齢化社会においてどのような社会保障の在り方が望ましいか」あなたの考えを書いてください。箇条書きでも構いません。

社会保障 第4回目 プリント

■ 各グループで前回の授業でのまとめをしてください。

■ グループ学習、他のグループの発表を聞いて改めて「少子高齢化社会においてどのような社会保障の在り方が望ましいか」改めてあなたの考えを書いてください。その際、「公正」の観点に触れながら、書いてください。

■ あなた自身がこの課題について、明日からできることは何ですか？